













長州 志士 富永有隣と土佐

(17)

県文化財専門委員

橋詰 延寿

郷土士族の家

武光の話を聞いた八十年の歳月が経った。有隣が今、忽然とこの西川の地に現れたら、世の移り変わりにびっくりするであろう。

武光の奥さんは、大杉村(現大豊町)和田大坪一重の二女である。大正十三年五月二十七日に七十四歳で死亡している。

武光の父が輝光で土族。昭和十五年七月六日八十八歳で死亡。妻は昭和二十六年十二月十四日七十七歳で死亡。それからの光晴さんである。妻の延女は昭和四十六年七月二十四日七十五歳で死亡している。

富永有隣をかくまった武光の孫が光晴氏であり、現在、父は生まれた年であり、母はまだ生まれていない。



粟生のかぢや

焼けた潜伏の家

さてこの家が八十年前のものがくづれかかって家財道具も焼失した。その時、有隣が書いたものや、有隣とタンスの引出しを抜いて下へ来た手紙など焼けてに投げ出したが、これも棟に焼けたと伝えられている。



ありし日の小笠原武義翁

大豊小唄を募集

大豊町連合婦人会では、町民の連帯意識を高め、郷土愛の精神を培うため、新しい時代に即した「大豊小唄」を募集することになりました。

募集要項 一、大豊町の特色を活かしたもの。例えは、大豊町の歴史、新しき時代、脱皮しようとして、躍動している大豊町の姿と、人情、ま

長崎に学ぶ

(7)

大 利 愛

十月一日、全日程の反て吹き出すお湯。まことに、省、事後報告書確認等、この世のものと思えぬ中、

山、天気は曇りやうす。光バスで雲仙を後に島原へ。島原からフェリーボートで

山、天気は曇りやうす。光バスで雲仙を後に島原へ。島原からフェリーボートで。松島へ、松島から再びバスに包まれ、視界は0とな

小笠原武義翁の九十翁

粟生一四四番地の小笠原武義翁の住居は、小笠原重貞さんの庭から桜の梢を覗くように見える。粟生公民館のすぐ近くである。幸いに、ご在宅。愛想よく迎えてくれた。此の老人も昨年二月三日に他界された。と聞

編集後記

◆養蚕や田植など何かといそがしいこの頃ですが、いそがしい中、新茶の葉が、注がれたお湯の中で静かにひろがる。忙しい中でも一服のお茶をお忘れな

◆館報が広報紙に終らぬように、町民の皆さんから投稿をお待ちします。町民の投稿は、紙面の紙面づくりに、ことは足でかきたいと考えております。よろしくお引立の程を

で、明らかに大豊が閉じてゆくのではないだろうか。出稼ぎ等により婦人のしめる人口割合の益々大きくなる。大豊町の発展は、私達婦人の双肩にかかっています。

町内婦人の皆様、こうした岐路に立って私達の心のよりどころとしてなくてはならない婦人会をみんなで育て、互いに教養を高め、互いに郷土を築くために、頑張りましょう。

個人ではどうしようもない大きな問題が私達のまわりには余りにも多すぎる。生活設計、特に家庭教育や人間関係等、その大半の鍵を握ると言われる主婦が、自主運営の力で、この社会教育活動の一環として、軌道を歩む。これが社会教育活動の第一歩である。

個人ではどうしようもない大きな問題が私達のまわりには余りにも多すぎる。生活設計、特に家庭教育や人間関係等、その大半の鍵を握ると言われる主婦が、自主運営の力で、この社会教育活動の一環として、軌道を歩む。これが社会教育活動の第一歩である。